





明治紀元仲冬刻

# 萬國新話

宜信齋藏板



417 7947

此書をりて社友に贈筆しし。或を  
西洋に送ししをり。親しく見せし  
記録を其のうちに載せしむ。此は漢書  
に像。新奇其事に遇ふは。それを抄  
譯をしり。のり。り。り。理事に倫  
なく。文と亦整理せしむ。人々示  
は。よりのあり。あり。あり。置



を。此。何。好。の。事。あり。て。こ。を。看。ん  
こ。を。希。ふ。の。少。し。ん。よ。り。て。先。初  
を。投。行。し。萬。國。新。話。と。新  
之。割。刷。の。附。に。餘。を。應。じ。次。を。逐  
ひ。刊。行。せ。し。と。云。ふ。  
明治元年戊辰仲冬

三又漢史識

萬國新話卷一



○英國飛脚賃の事

英國飛脚の法數十年前まゝを今と異ありて其  
價も高く不便の事多かり。ガロウランド・ヒル  
と云へり人の工夫より當今の法は變りたり之  
を「ペンニイポステイジ」といふ。「ペンニイ」を通用  
錢の名より大約我り九分は當る。「ポストイジ」を  
飛脚賃の事より二語合せて「ペンニイ」の飛脚



賃と云ふ義あり此法を近来新發明の一として  
 蒸氣船、電信機、おどの發明と同様は賞譽を蒙り  
 其起原を尋ねるはロウランド・ヒル一日遊行せ  
 一計らに一怪事を見し一女子有り其兄何  
 方へう旅行せんとをりは當り數其安否を知ら  
 んあを願ふは手紙を送るは其賃錢僅に一  
 ルリング我十一奴許なれとも極えて貧窮ゆゑ  
 是の意の如くを如何せんはあともと嘆きは不圖  
 一工夫を案し出と兄と約して政府を欺かんと

謀れり其仕方と兄より手紙を送るは時を  
 上封を見まは既は其恙なき趣を分明あれは事  
 は托し其手紙を請取らるして賃錢を拂ぬ工  
 夫ありロウランド・ヒルを之を見て其謀る所は  
 悪事なれども元來困窮より起る事其  
 情も憫むをく畢竟今日飛脚の仕法宜しう  
 故るれは是を改革せは斯る弊もあく萬民の為  
 免其益少くはと思ひ是より深く工夫を凝ら  
 一凡て書状の賃錢を遠近は拘りて只輕重



以て定む可く重半オンス四匁許以下おまハ英國  
 中何方へ送るとも一ペンニイよて足れとそ  
 議論并よ其仕方の次第を委しく述へて諸方へ  
 遍く告知らせ此一事を己ら任と種々骨折  
 せりり議事院よて別よ掛りの者を命し此法  
 の可否を穿鑿せし免ゆるは何事も至極良方よ  
 て高賣上りも大よ利益ある可き趣を述べれと  
 も猶議論紛起りて決まら其後此法を採用し  
 んあつて願ひ出る者一萬餘人よ及へり是よ於

て終る千八百三十九年八月十七日議事院よて  
 之採採用し翌年七月より施行せり此法一  
 行なれてより其運送ハ元より蒸氣車蒸氣船  
 走ハ達し方も甚よ速よて國の端より端へ送る  
 事も一日を掛らぬ大とよ如何なる田舎も  
 も手紙の達せぬ處ハ無き様よ成行きハ人々  
 其便利を喜ぶゆゑから下賤の輩よ至るまで  
 皆手紙を認得んと欲し銘々文字取學ぶの意を  
 盛よきり此の如き次第よて書翰の數も速よ増



一、千八百三十七年より七千五百萬あり、  
 四十三年より既に三萬六千萬あり、  
 四、ロウランドヒルをビルミングハム地の學校教  
 師の子より千七百九十五年より生れ天資明敏長  
 きを及ひ父を助きて生徒を教授し其學校  
 の制を變革し教育の法を補正し餘り勉強した  
 る以て多病となり其教授を辞しより其後南  
 オーストラリア掛りのセクレタリー役に撰名せ  
 らるゝ千八百三十三年以後は前より云へる飛脚の

仕方は心を盡し三十七年より飛脚局の役人となり  
 せしむるより外の役人と兎角議論合をさる  
 事多く四十三年終り其職を辞せり四十六年より  
 至り國中有志の輩相議して斯る國益を起し  
 大勲勞を追謝せんとし各金を出し千三百ポンド  
一、ポンドを我三  
二、不許は當るを贈りより四十七年再び其  
 職を復し國內を勿論海外諸國への飛脚の法則  
 を多く改正せり政府も亦その功勞を賞し「ナイ  
 ト、オ、フ、バ、ー、ス」と云へる身分より進免しり



西洋諸國より飛脚の事を政府より役所を設け  
之を司り私に取扱ふ大に嚴禁して若之を犯  
す時の過料を取上る法有り書状を送るに先  
其封皮に飛脚印と唱へ大七八分位の紙に國王  
の面或は種々の物象を印したる者を張付て飛  
脚所へ送るに國中の勿論世界中何處までも相  
違ふく違ふるあり蘭頓市中の處々飛脚柱と  
云ひて鉄の筒を立置きこれに都合して其内へ  
投入も置きあり飛脚所より取集るあり皆此飛脚

印に其役所より製し賣るこやして利益莫大  
そとの利益とあり所以に一例を擧るは英國よ  
く前よ云へる如き一ペニエの飛脚印千枚を  
製するに其費僅に六ペニス凡そ我らあり此千  
五枚四分枚を賣るに其價四ポンド三シリング四ペニ  
ス凡そ九百  
目よ當る枚得るあり此内より千通の手紙を  
送る雜費を引き残るに即ち利潤あり此雜費ハ  
至て僅らあり故に英國より此飛脚局よ  
りの收納夥し此事あり千八百六十七年より其



高四百四十七萬ポンド、其運送諸雜費八十一萬五千九百九十三ポンド、十三「セルリング」九ペンズと云ふ之を其收納高より引去り殘る三百六十五萬四千六百六十三「セルリング」三ペンズ、即ち日本金にて大約千三百十五萬四千四百二十二兩二朱餘と全く利潤とあるなり

地下蒸氣車鐵道

西洋より數十年前より今の如く鐵道の設  
きも無く富貴の人へ自分所持の馬車を用ひ其

外へ乗合車より旅行より日本の駕籠又ハ歩  
行より比を遙かに遙り便利なれとも費用も少  
ら支時日も費や不便の事ならず又ワットと云  
へる人蒸氣機關を發明し蒸氣船を造りより  
漸く水路の便利を増し其後スチーブンソンの  
發明より蒸氣機關を用ひて陸上も車を引く工  
夫を廻らし旅人を載せ或ハ品物を運送し陸路  
の便利を起せり是も始めハ「マンチュストル」とリ  
バプールの間のをありしが如何にも便利の



事故は次第に盛になり今も國中の鉄道恰も蜘蛛の糸を張る如くして更に旅行の勞も無く數百里の路を往來するも猶隣家に行くに異ならず其便利實に筆紙に盡す所なり  
此鉄道は西洋諸國并に亞米利加にて盛なり  
とい述るも及んで近頃を印度アウスタラリア下見ゆに至るまで次第に盛になりこれハ誰も格別珍しき事とは思ふ様になりしが實に驚く可きは近來蘭頓にて造る地下の鉄道

あり

蘭頓ハ世界第一といふ可き廣大の都にして其場未より中央の最も繁華なる場所へ至らんを恰も江戸にて四谷青山邊より日本橋邊へ至る如く其道も遠く往返の勞も少うに然るも此繁華の場所も在る間屋其外大商人の番頭手代又ハ諸職人杯場末に住居し通勤する者多し故に是をオムニバスと唱ふる乗合車有りて其便利を助るこれハ随分都合能き事なり



繁華の地の習ひよく便利の上にも便利を貪り  
此乗合車よくの尚不便ありと云ふ説起り蒸氣  
車を用ひんとし市中に鉄道を造らば往来  
の妨ぎの勿論種々の故障多きを以て終に地下  
鉄道を造くる事と決し数年の工夫して漸く千  
八百六十三年に成就したり是より往来よく  
第一時刻を費さず賃錢も至て少され其便利  
を喜ぶる者おく乗る人も夥しく是を造る  
組合も随て利益を得るおと夥しくと云へり○此

仕掛の大畧に往来の地面より大抵深二丈余の  
處を上下左右共石より疊ち恰も洞の如きも  
のを作し其底に鉄道二條を設ち蒸氣車を往返  
せしむるなり且此蒸氣車の通り筋に處々待  
合所を設ち此所より地底まで上り下りする様  
に石段を造りたり故に之に乗人と思ふ時を最  
寄の待合所に至り代料を拂ひ切手を請取りて  
乗込し先の上り場の待合所より此切手を返す  
あり車は大抵五分より十分は往来する故



先きの車に乗後より五ニユート程待  
合を此の直後の車来りあり假令ハ浅草より  
品川までの鉄道ハ其間ハ五所も待合所を設  
きたる故ハ浅草より品川まで乗る人も何り又  
ハ兩國邊より下る人も何り又兩國より乗組て京  
橋まで行る何り實ハ便利あるおとなり車ハ上  
中下の三等ハ分ち上等ハ腰掛ハ花麗なる蒲團  
を敷き下るも花毛氈を敷たり中等ハ之ハ順一  
少しく下るのみ下等ハ蒲團も無く敷物も無一

されど其價ハ至て廉ふり車中ハ石炭を焚く  
場所より直下ガスを取り燈を照も故ハ地下よ  
ても甚と明しく新聞紙を讀ぶ何り行く人多一  
我等も日々學校へ通ひ一ハ往返共ハ此車に乗  
る何り寓居より學校までハ其道法日本の五十  
丁ほどか何り大抵九ニユート許して達した  
り日々の事ハ其ハどの代料を一々拂ふも煩一  
ハ費も減き事故ハ一度ハ半年分の切手を求  
免置き之を待合所まで掛その者へ見き一なり



其代半年より三兩二分一朱計りあり  
地下の鉄道此如く便利あり故に益之を盛んに  
て府内を縦横に通せんときり然るに最初六の  
鉄道も往來の妨を恐るり地下に造るるが段  
々盛ふるに從ひて地下にても亦故障ありを以  
て更し此鉄道の下に鉄道を作らんとて去年の  
春より其普請を始りし程よく成就せり

○各國帝王賄料

西洋諸國と亞細亞諸國と其政体も異なりて國

君と雖も錢貨を自由にするの威権無し其賄料  
も官吏の給料と同様は一年何程と議事院にて  
定むる者あり但し其時の事情より由り増減も  
あり有るあり今此に擧ぐるは千八百六十七年  
即ち慶應三年の記に據るあり

英吉利 三十八萬五千ポント 三十三萬五千封度  
國王遣使給金六萬封度

佛蘭西 二千五百萬フランク 百  
萬ポント

此外に國帝所持の田地より其收納大約千  
二百萬フランクあり故に當今拿破倫帝ハ其



請取<sub>る</sub>所の金高四千二百萬フランク<sub>ク</sub>及ふ  
然<sub>ら</sub>る<sub>も</sub>其費<sub>を</sub>所<sub>も</sub>甚<sub>と</sub>多<sub>く</sub>現<sub>よ</sub>り<sub>の</sub>借金<sub>一</sub>  
億<sub>一</sub>フランク<sub>四</sub>百<sub>万</sub>ポンド<sub>一</sub>及ふと云ふ

魯西亞 百十六萬三千三百十六ポンド

普魯士 四十六萬九百六十四ポンド

和蘭 四萬五千ポンド

白耳義 十一萬四千ポンド

伊太里 六十五萬ポンド

是班牙 三十四萬八千五百ポント

瑞典 二十六萬六千五百ポンド

此外<sub>ニ</sub>那威<sub>を</sub>領<sub>ま</sub>り<sub>て</sub>以<sub>て</sub>同國<sub>より</sub>

二萬四千五百十ポンドを請取<sub>ら</sub>る<sub>り</sub>

丁株 七萬八百七十五ポンド

葡萄牙 八萬二千八百八十五ポンド

此内<sub>より</sub>國內教育費用を助<sub>く</sub>る<sub>為</sub>り<sub>は</sub>  
年々五千九百四十ポンドを出<sub>ま</sub>すと云ふ

右の員数<sub>も</sub>全<sub>く</sub>國君<sub>一</sub>身<sub>の</sub>賄料<sub>も</sub>此外<sub>ニ</sub>王  
妃太子等<sub>ハ</sub>固<sub>より</sub>其他國王<sub>の</sub>親族<sub>ハ</sub>皆夫々の



賄料を請取るおとまり

ガイホークスの話

毎年十一月五日は蘭頓の町々まで布屑<sup>ボロ</sup>を以て大なる人形を造り車に載せ市中を曳き廻り其跡へ童児輩多勢附き<sup>ヒ</sup>ガイホークス<sup>ガ</sup>イホークスと呼ぶや果ては郊外へ至りて此人形を焼捨る事あり其起原<sup>オコリ</sup>も昔千六百五年國王ゼームスの代はプロテスタント宗を信奉せしむ其事は就きカトリック宗の徒は之を怨むる

者ありて國王を弑しんとして多く黨を結ひ相謀りけるが國王をうりうりとも尚怨を晴すは足らぬ議事院をも滅せんと企て密に議事院の床下は火薬三十六樽を入き置き十一月五日ハ議事院の開き日にて國王を始に掛役々并に議事官も悉く集會せし事おとまり其時は乗一舉にて塵よせんと評決<sup>ガ</sup>イホークスと云へる者を火付の役は定免り然るは天網之を漏るは二三日前は至り此企終は露頭は及ひり其子



細ら彼徒黨中の議事官マウントイーグルと云ふ人の親類たりて此難を免らむと欲し無名の書を作して此事を告ぎしマウントイーグルも之を見て大に驚き早速國王に訴へし國王の父ロルドダアンレイも曾て仇人のため火薬を以て殺さるるを以て此度の擧も必ず火薬の仕掛たりしを以て心附き直に議事院へ人を遣し吟味せしめ床下よかのガイホークスに火附道具を用意して忍び居しを見出し之

を捕へ糾問せしは果して國王の察せしに違はま多くの火薬を隠し置きたる事と白状し及これに其徒黨も悉く召捕へ夫々之を罰し事落着しより國人深く之を惡し是より以後前も述ふる如く毎年十一月に其像を造りて之を焚くありありあり

昨慶應三年にも例の如く人形を造りて或町に之をガイホークスの像を毘崙奴の姿に造りしは是を如何なる故と云ふは近年アフリカ洲



「アビシニヤ」の王、英國へ對し數、不法の事を行ひしるが以て英國より兵船を送り戦ひし及ひし最中ふまの國人之を惡み陰りよガイホークスに托して此の如く為さしと云

○學校次第は盛ふる話

學校を兒童は文字を習ひし藝術を教ふて才智を増し心志を誘導し善は進まし免長まらば及ひて人の人しる職分を盡さしむるは根元にして之を小まされし一身の幸不幸之を大ま

まの國の盛衰、風俗の美惡も皆關係する程の者なり學校を設きて兒童を訓育するは實は國家の急務と云可し是故は西洋各國より近來小學校の設き彌盛なりて都府の固より如何ある村落僻邑と雖も學校有らざる處無し今其教育の盛は成行きたる一二の證を舉ぐる

英國より千八百四十年の頃を文字を知らざりしが名を記を能ざる者百人は三十二三人の割合ありしが六十六年より大に減りて二十三



人の割合とあまり婦人も同様より四十年より  
字を知らざる者百人に殆んど四十七八人の割  
合ありより六十七年より僅に二十三人とあれ  
る  
千八百五十八年より「エングランド」及び「スコット  
ランド」の小學校の數六千六百四十一より教授  
を受くる童子百十五萬五千九百六十四人あり  
是より年々増加して千八百六十七年より學校  
の數八千七百五十三童兒の數百七十二萬四千

二百八人より及「アイルランド」より小學校より  
教授を受くる童兒の數千八百六十七年より九十  
一萬八百十九人ありと云ふ  
佛蘭西より千八百三十二年より小學校の舊古  
人民口より合せて千人より五十人の割合ありより  
六十三年より百十六人とあれり○同年の記より  
小學校の數八萬二千百三十五其教を受くる童  
兒四百七十三萬千九百四十六人あり此年の評  
議より右の外國中より猶四萬餘の小學校を起すへ



一と云へり

全く女子の<sup>る</sup>此為免<sup>る</sup>設<sup>る</sup>小學校の數二  
萬六千五百九十二入學の女子百六十萬九千二  
百十三人

和蘭ハ全國の人口大約三百萬あり然る<sup>る</sup>小學  
校の數二千四百七十八稽古人男女合せて三十  
二萬二千七百六十七人あり

日<sup>ゼ</sup>耳曼諸國ハ兒童教育の法行届<sup>る</sup>と各  
國之<sup>は</sup>及ふ<sup>る</sup>の無<sup>し</sup>普魯士「サクワニイ」の如<sup>き</sup>

ハ政府<sup>より</sup>小學校を設<sup>る</sup>國中の貴賤貧富男女  
の差別なく年五歳<sup>に</sup>満<sup>る</sup>ハ必<sup>ず</sup>學校<sup>に</sup>入<sup>る</sup>法  
法<sup>より</sup>若<sup>し</sup>外<sup>より</sup>稽古<sup>し</sup>學校<sup>に</sup>入<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>時<sup>ハ</sup>父  
兄<sup>より</sup>其子細を述<sup>へ</sup>官許を得<sup>る</sup>ハ非<sup>ず</sup>ハ決  
して之を許<sup>さ</sup>ぬ<sup>る</sup>是<sup>ハ</sup>國の文學技藝他國  
<sup>に</sup>勝<sup>る</sup>所以<sup>あり</sup>○英國<sup>より</sup>も近來<sup>に</sup>ロルド  
リュッセルと云<sup>へ</sup>る人の議論<sup>より</sup>此法を行<sup>ふ</sup>  
との企<sup>て</sup>有<sup>る</sup>由<sup>あり</sup>

魯西亞ハ五十年来次第<sup>に</sup>盛<sup>なり</sup>と雖<sup>も</sup>未<sup>だ</sup>他



國の如くあり次七年前は國中中小學校の數八千九百三十七生徒の數五十二萬餘ありと云  
 米利堅合衆國小學校の數八萬九百九十一生徒の數三百三十五萬四千百七十八人  
 右は擧るるを「ピュブリックスクール」此校の義と唱ふる者より身分の差別なく大抵五六歳より此所に入り手跡算術地理歴史等を學び十四五歳の頃に至るの畧その要領を會得して退學するを常とし其後の各志を所の業を習ひ職人とあるも

けり商人と為るを有る或は大學校に遷りて更に上等の学科を修し學者と為るをけり  
 蘭頓ロンドンの此外學校と稱するもの猶八九種あり次卷よ○貧窮にして學費を出せざる者有志の輩社を結び金を捐て取建する學校あり  
 如何なる窮民と雖も小兒を送るを得るなり  
 此學校より稽古人の用る書籍を勿論筆墨紙に至るまで至て廉價に與ふる様は仕方を設る



有名諸國錢貨出入國債等の表

國名	歲入	歲出	國債	同利息	輸入品の價	輸出品の價
佛蘭西	七千九百萬	七千九百萬	五億四千萬	二千五百萬	一億三千七百萬	一億三千八百萬
英吉利	七千萬	六千八百萬	七億三千七百萬	二千六百萬	二億九千九百萬	二億三千九百萬
和蘭	八百五十萬	八百五十萬	八千九百萬	二百五十萬	三千六百萬	三千萬
白耳義	六百萬	六百萬	二千八百萬	百五十萬	五千萬	四千七百萬
瑞士	百萬	八十五萬	十六萬	三千	○	○
丁株	二百萬	二百五十萬	千九百萬	百萬	四百五十萬	三百萬
是班牙	二千二百萬	二千七百萬	一億六千四百萬	四百萬	千七百萬	千二百萬

魯西里	五千三百萬	六千萬	二億六千五百萬	千百萬	二千九百萬	二千九百萬
普魯士	三千二百萬	三千百萬	五千九百萬	二百萬	○	○
伊太里	二千七百萬	三千六百萬	二億二千六百萬	千七百萬	三千九百萬	二千八百萬
葡萄牙	四百五十萬	五百萬	四千七百萬	百五十萬	○	○
澳地利	三千二百萬	三千九百萬	二億九千萬	千三百萬	二千四百萬	三千百萬
瑞典	二百萬	二百萬	六百五十萬	二百五十萬	九百萬	九百萬
那威	百萬	百萬五百	百五十萬	十萬八千	○	○
合衆國	九千六百萬	九千九百萬	一億三千二百萬	二千八百萬	八千萬	五千九百萬
支那	○	○	○	○	四千九百萬	三千四百萬



右の表ハ慶應三年蘭噸にて出版せる書中より抄出せる者あり表中の數を「ポンド」を以て一と定め萬々を億と以て元來各國の錢貨各異ある故に一々其名を以て記し假令ハ和蘭をギルテン佛蘭西をフランクと為を可きを「ポンド」としたるハ其比較し易うらんが為あり

○澳<sup>アウスタラリヤ</sup>大利亞

アウスタラリヤと日本の正南に在る大島にて近頃まで新和蘭と唱へし地なり英國の所領と

あり千七百八十八年<sup>天明八年</sup>罪人の男女七百五十餘人を徙したるを西洋人の此地に住居し始るとは是より年々罪人を送り又生計營み易きを以て英國より家を移る者多く近來益盛にして毎年萬を以て數へ既ハ蘭噸の人を「アウスタラリヤ」の人と書翰の往復せざる者無くと云ふに至り斯る次第より此地にて生産する者も夥しく且英國の如く諸國より移住の者も少うは人口頓に増加して當今ハ百二十餘萬



よ及へり盛よ土地を開拓し金鑛を掘り獸畜を  
牧する等の業を勉む是を以て日城逐ふて産物  
も多く製造も盛よ成行き随て交易も繁昌し千  
八百六十五年よの輸入品の價二千八百七十五  
萬四十九ポンド輸出品の價二千六百一萬七千  
四百二ポンドと云ふ○全國の廣三百萬里方分  
ちて五部と云ひ曰く新南ウエールス曰く井クトリ  
ヤ曰く南アウストラリヤ曰くク井ンスランド  
曰く西アウストラリヤ此一部毎よ奉行一人を置

き皆本國よ劬ひて上下の議事院を設き議官を  
撰舉し政事を施せり学校并よ寺院を建て児童  
を教育し病院を設き貧民を撫恤し鉄道を作  
りて運送を便利し製造所を設け工業を励ま  
す等百般人民の利益を増し開化を進むるの設  
け大抵有らざるに無し其國內よの電信機あり  
海外へも定式の飛脚船ありて速よ消息を通し  
旅行を容易くするを以て家を移せし者天涯萬  
里の外よ在るを忘れ忘むるあり○國內の産物



金、銀、銅、石炭、羊毛、獸脂等をその最ある者として馬  
牛羊等元此地の産は非ず皆本國より遷せしむ  
速に蕃殖して各數十萬に至り殊に其羊毛を  
細軟にして上好り年々の輸出五千萬斤は下  
らぬといふ○此國土人をアフリカの黒人の如  
く天性蠢愚にして智識無し男女共裸体にして  
只頭を包み腰を纏ふのみ或ハ英人の支配を受  
けし者あり或は不羈ふる者あり近頃西洋人移  
住せし以來銳烈の酒を飲覚へ之を制するも從

を以て之を命を失ふ者も少くは人口次第  
に減ると云ふ

新南ウエールズは東南の隅に在り氣候温和且  
最初は人民を移して其繁昌他の部は  
異なる人口四十一萬千三百余此部の学校の數  
千六十九入学の童兒五萬三千四百五十余人首  
府をシドニーと云ふ初めて人を移せし時著岸  
を以て今ハ商買輻湊帆檣林立きり人口  
殆ど十萬に及へり学校病院の類ハ固より備り



為替所<sup>レ</sup>り飛脚所<sup>レ</sup>り戲場<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>り往来<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>り  
ガス<sup>レ</sup>燈を照<sup>レ</sup>實<sup>レ</sup>嚴然<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>大都府<sup>レ</sup>あり  
ク井<sup>レ</sup>インスランド<sup>レ</sup>へハ近來英國より移住の者  
多く千八百六十三年の男女總計一萬二千人  
と云ふ

井<sup>レ</sup>クトリヤ<sup>レ</sup>を千八百三十五年始めて百七十七  
人を移せ<sup>レ</sup>六十六年<sup>慶應二年</sup>の六十二萬六千  
六百三十九人<sup>英國外</sup>に及<sup>レ</sup>り但<sup>レ</sup>此内西洋諸國の  
米里堅支那の人四萬九千二百三十人あり此部

と金を産するものと最多く千八百五十六年より  
其價千百九十四萬三千九百六十四<sup>ポンド</sup>あり  
近年ハ大<sup>レ</sup>減<sup>レ</sup>殆<sup>レ</sup>と半數とるれり當時  
此金礦を掘<sup>レ</sup>る人數八萬三千百余人此内支那人  
二萬千人余と云ふ三年前<sup>レ</sup>此部より英國へ輸  
送せ<sup>レ</sup>る羊毛四千四百萬八千六百三十五斤此  
價三百三十萬三千四百七十八<sup>ポンド</sup>あり鐵道  
の設<sup>レ</sup>近年大<sup>レ</sup>増<sup>レ</sup>て其收納五十九萬五千<sup>ポ</sup>  
ンド<sup>レ</sup>余<sup>レ</sup>に至<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>と云ふ



西アウスタラリヤと千八百二十九年始て人  
移せしと雖も土地水も乏しく今日に至り繁昌  
き次當今英國よりハ只此部との罪人を送き  
り又此部の議事院より奉行諸有司と相議して  
事を計らへり

近來和蘭人の著述に二千六十年と云へる標  
題して夢物語と托し今より二百年後の世界  
の形勢を述べし書あり其内は此アウスタラ  
リヤの獨立して合衆國と為りたる有様を説

けり是素より一時の戯作ありども本文の如  
く人民を移せしより今日に至り僅に八十餘  
年より其繁昌るくの如く進みしを以て推  
を時を尚二百年も経たらんは人民の蕃庶  
ハ論をりまても無く百事大變革を起し終に  
右の書に述ふる如くありんも計り難し

前記述ふる如く英國よりアウスタラリヤへ移  
住夥しきハ頗る驚く可きなり然るに諸國へ  
移住の全數を見れば更に驚くは堪へり抑此移住



と千八百五十二年の頃最盛にして一ヶ年よ三十  
六七萬人にも及びひしが五十八九年よハ次第よ減  
して其半にも及ばず然るは其後再び盛よありて  
六十六年慶應三年ハ二十萬四千八百八十二人よ  
及へり但其志す所各異して北彌利堅英領へ  
趣く者一萬三千二百五十五人合衆國へ趣く者  
十六萬千人アウスタラリヤへ趣く者二萬四千  
九十七人其他諸方へ趣く者六千五百三十人  
千八百五十二年より六十六年まで十五年の間英國

より他國へ徒住せし者總計三百一萬千五百六十四  
人此内二十八萬二千七百十九人北彌利堅英領へ趣く者  
九十三萬八千四百六十九人合衆國へ趣く者七十萬六千  
二百二十七人澳太利亞并ハ新則ゼイラント蘭土へ趣く者八万四  
千七百八十九人ハ外諸國へ趣くと云ふ

○市中取締の事

西洋各國都會の地よハ取締人を置き昼夜怠ら  
ず巡邏して市街の非常を警し路人の不作法  
を正し少くも異変あるを直ちに之を取押す



あり故に市街整々として塵土糞穢を捨置き又  
長物途に横りり車馬行を妨多醉人暴客の人  
を侵も等の事無し○蘭頓の取締人数凡そ六千  
人夫々持場有りて嚴重に巡邏有り但平常に隊  
を為銃槍劔戟を携へ威を振ふとなく只短き  
棒一本を持つのも盗賊乱妨等の外取押可き  
ヶ條大畧左の如し

往来して馬を賣買し并に馬を秣ふ事○馬の  
鉄靴カチカチを打つ事○馬を放ち并に猛犬を口籠無し

は放つ事○犬を吠ケレケルする事○牛馬を牽き往来

の妨多を為す事○獣畜は石を擲ち又ハ残忍

は取扱ふ事○車を法外は走らせ人を害する

事○歩行路

西洋市街ハ大抵三條ハ分ち中を  
車馬の路とし左右二條を人の歩

行は車馬を引入る又ハ長大の物を携へ歩

行する事○許を得ずして壁杯へ書付を張付

多又ハ樂書する事○家屋墻壁等を毀つ事○

猥褻の書画

春画の類を取扱ひ并に其事を歌謡し又

を談話する事○無禮の語を吐き争鬪を起す



事○人を集むる為り猥々鳴物を喧しくする  
事○銃を發ち石を擲ち猥々火を燃し花火を  
揚ぐる事○往來の燈を滅る事○紙鳶カクを放ち  
往來の妨ぎを為る事

取締人の少壯勇健の者を撰ひて之に任を給料  
ハ一様あり大抵一週日は十八シルリンクク三  
一分と石炭四十斤宛無妻の者の半年の四十但  
衣服を皆仕着せり人毎に巡邏する路程を算  
それハ一日は畧日本の七八里乃至八九里に及

へり

蘭頓々々年々此取締の手を掛る者大約六萬人  
男四万人 女二万人 下らん其内過半ハ醉人ありと云ふ

萬國新話卷一終



大正八年八月廿五日  
東京本町四丁目  
上州屋總七  
追々出来

明治二年新春發兌目錄

東京本町 四丁目 上州屋總七

西洋軍制	二冊	西洋雜誌	追々出来
英國刑典	三冊	柳園叢書	同
亞彼西字樣	一冊	中外漫筆	同
英古日用通語	一冊	うひまゐ	同
佛學階梯	一冊	洋學便覽	同
十一國語箋	四冊	西洋將基指南	駒若 一冊
萬國新話	追々出来	算法珍書	一冊







